

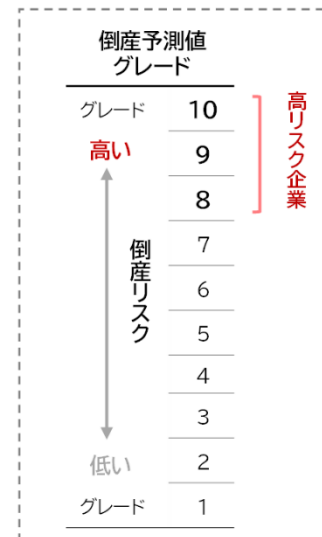
## 神奈川県内企業「倒産リスク」分析調査（2024 年）

# 6000 社が倒産リスクに直面

## ～ 製造業が前年比 27.9%増 ～

2024 年の神奈川県内企業の倒産件数は 542 件（前年比 3.8%増）となり、3 年連続の増加となった。デフレ脱却に向けた動きが加速した一方、物価高や人手不足、節約志向の高まりなどを背景に新陳代謝が進み、休廃業・解散企業も 4416 件（前年比 21.7%増）と大幅に増加した。

そこで、帝国データバンク横浜支店は、企業が 1 年以内に倒産する確率を 10 段階のグレードで表す指標「倒産予測値（※）」をもとに、2024 年 12 月時点で特にリスクが高い企業（グレード 8～10）を「高リスク企業」ととらえ、分析を行った。



### （※）倒産予測値とは

- ・倒産予測値とは今後 1 年以内に倒産する確率を個別企業ごとに算出したリスク指標
- ・現地現認の信用調査と、独自のネットワークによる変動情報などを集積した帝国データバンクが保有するビッグデータから、倒産に関係が深い要素だけに焦点を当て、独自のモデルにより算出
- ・個別企業ごとに予測したリスク指標を G1～G10 の段階のグレードに設定しており、G1 が最も倒産リスクが低く、G10 が最もリスクが高いグレードとなっている。実際、グレードが高いほど倒産が発生している

### 調査結果（要旨）

1. 2024 年における神奈川県の高リスク企業数は、算出の対象となる県内企業約 7 万 6000 社のうち、8.0%にあたる 6058 社。前年（5939 社）から 2.0%増加
2. 業種別にみると、『建設業』が 2160 社で最多。以下、『卸売業』（1018 社）、『製造業』（1012 社）と続く。前年からの増加率は『製造業』が 27.9%増でトップ
3. 売り上げ規模別にみると、「10 億円未満」の占める割合が 9 割超

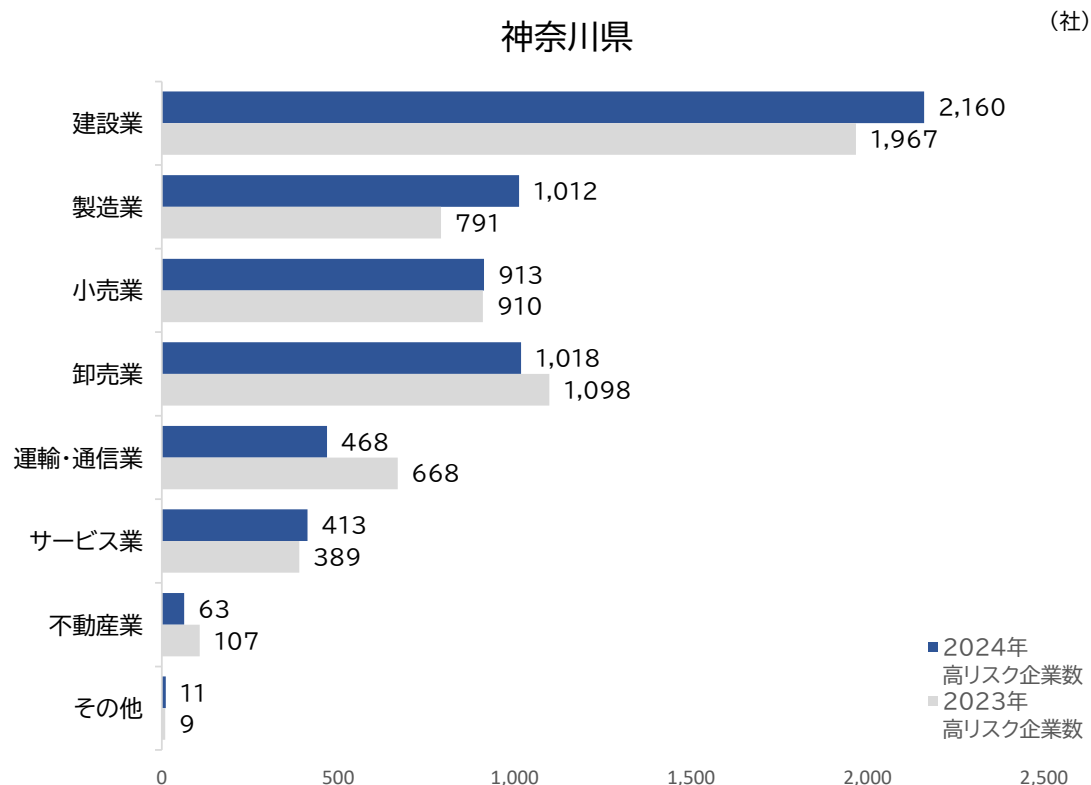
### 全体：倒産リスクが高い企業は 6058 社

2024 年における神奈川県の高リスク企業数は、全体の 8.0%にあたる 6058 社。前年（5939 社）から 2.0%増加した。業種によって、前年からの増減傾向に差もみられるが、主要 7 業種中、『建設業』『製造業』『小売業』『サービス業』の 4 業種で前年から増加することとなった。



### 業種別：『建設業』が 2160 社で最多

業種別では『建設業』が 2160 社で最も多く、前年と比較すると 193 社増加した。次いで多かったのは『卸売業』の 1018 社（前年比 80 社減）、3 番目に多かった『製造業』も 1012 社で 1000 社を超え、前年からの増加社数は 221 社と業種別で最多、増加率も 27.9%増と最も高くなっている。



## 注目業種

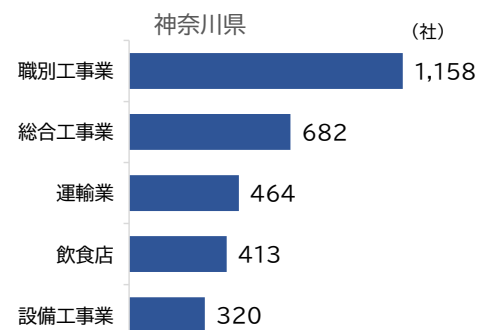
### 『建設業』

2024年の倒産件数は134件で前年（146件）から8.2%減となったものの、2年連続で100件を大きく上回っており、高リスク企業（2160社）は前年比9.8%増となった。人手不足や人件費高騰、資材高などを背景として資金繰りが厳しくなる中小零細企業が倒産に至っている。休廃業・解散も483件と業種別で最多、前年比12.1%増と増加率も業種別で最も高くなっている。

### 『製造業』

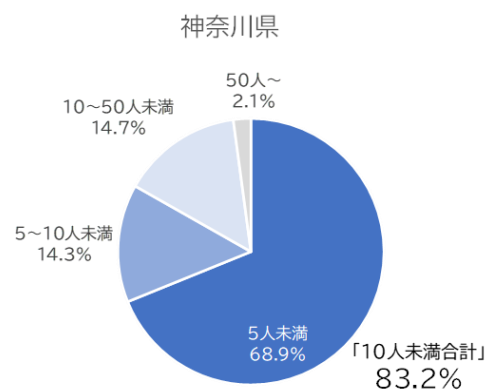
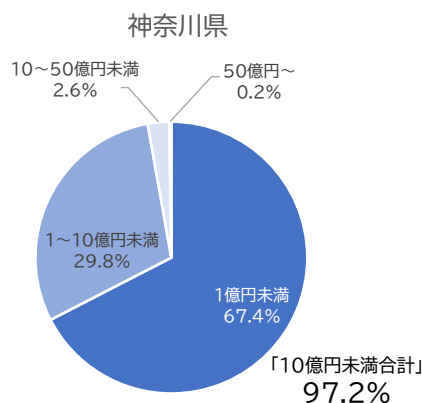
2024年の倒産件数は48件と前年（51件）とほぼ横ばいで推移、一方、休廃業・解散は前年比7.4%増の160件で、増加率は『建設業』に次いで高い水準となった。輸送用機械などをはじめ、神奈川県は製造業が盛んだが、高リスク企業（1012社）は前年比27.9%増となり、増加社数とともに増加率も業種別でトップとなっている。

さらに業種を細かくみると、『建設業』では「職別工事業」が1158社と最も多く、「総合工事業」、「設備工事業」も上位となった。また、原材料費や光熱費、人件費の高騰、物価高による節約志向の影響を受けている「飲食店」も上位となっている。



## 売上げ規模別：売上高「10億円未満」が高リスク企業の9割超を占める

売上高別にみると、「1億円未満」が最も多く67.4%を占め、次いで「1～10億円未満」が29.8%を占めた。この結果、「10億円未満」の企業で全体の97.2%を占めた。従業員数別では「5人未満」が68.9%を占めたほか、「5～10人未満」（14.3%）と「10～50人未満」（14.7%）がほぼ同水準となった。高リスク企業は小規模企業が圧倒的に多いことがわかる。

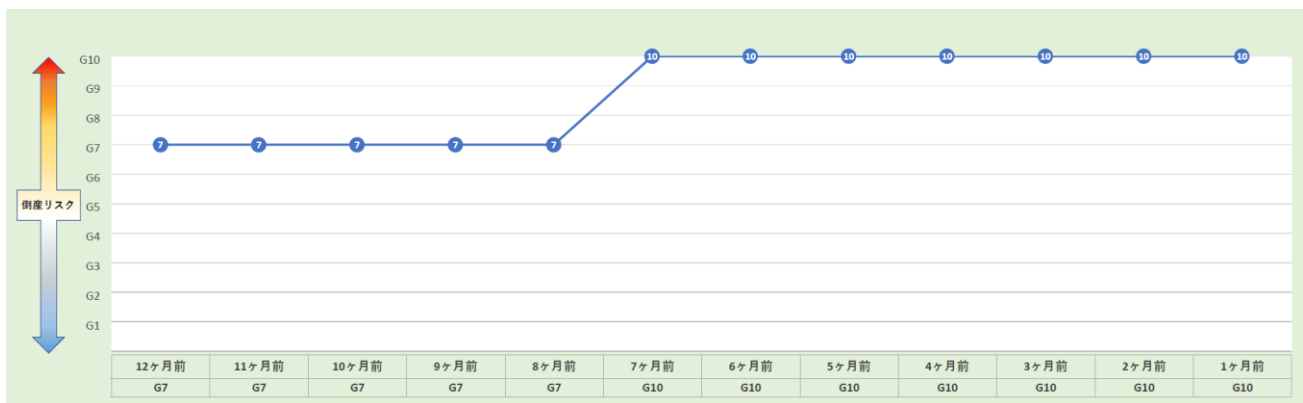


## 倒産予測値を用いた分析事例

### A 社のケース

(2024 年 6 月破産、食堂運営ほか、神奈川県相模原市)

従前より採算面に課題を抱えていたほか、新型コロナの影響もあり予測値グレードは G7 と G8 の一歩手前のグレードが続いていた。そうしたなか、コンプライアンス上の問題が発覚したことで G10 へ上昇。その後も資金繰りの悪化、債権者から差押えを受けるといった状況下、グレードは G10 で推移した。



## 今後の見通し

神奈川県内の倒産および休廃業・解散企業が増加傾向を辿るなか、倒産リスクが高い企業も前年比 2.0%増と増加傾向となった。輸送用機械などをはじめ製造業が盛んな神奈川県だが、今回の調査では『製造業』の増加数が業種別で最も多い結果となった。企業からは「自動車メーカーの生産回復次第」（化学品製造）、「トランプ政権による影響がどの様に出てくるか読めない」（電気機械製造）など、国内景気のみならず米国をはじめとする海外情勢によって業績に影響を受ける企業も少なくない。ただし一方では、AI 関係の需要増に期待する声や設備投資が徐々に増えつつあるといった明るい材料のほか、人手不足や資材高騰による原価上昇分を転嫁できているとの声も一部の建設業者から聞かれる。「飲食店」では小規模クラスの倒産が発生しているが、インバウンドや少人数の来客を取り込み売り上げをカバーしている事業者もある。

100 年に 1 度と言われる自動車業界の変革期、半導体の市況、また多くの業界に共通する人手不足や賃上げ、価格転嫁の動向など企業を取り巻く環境は絶えず変化している。こうしたなかにおいて、優勝劣敗は業界に限らずこれまで以上に進むことが想定される。企業は様々に起きる変化をチャンスと捉え、変化への対策策を講じ適応していくことができるか否かが一つのポイントになるだろう。

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

**【 内容に関する問い合わせ先 】**

(株) 帝国データバンク 横浜支店 情報部

篠塚 悟

TEL 045-641-0380      FAX 045-641-2555

e-mail satoru.shinozuka@mail.tdb.co.jp